

全国コミュニティ・スクール連絡協議会会報 特別号

令和8年2月12日 編集・発行 全国コミュニティ・スクール連絡協議会事務局

全国コミュニティ・スクール研究大会 in 仙台 地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2025 仙台を終えて

宮城県仙台市 教育長 天野 元

令和7年11月8日に開催いたしました「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 仙台」には、会場およびWEBを通じて1,000名近い皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

本大会は、「多様なつながりの中で共に学び支え合う社会の実現に向かって～自然災害からの復興・創生を通して考えるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性～」をテーマに開催いたしました。

午前のパネルディスカッションでは、「復興の足跡から未来へ」を柱に、災害の激甚化・頻発化を踏まえ、防災などの課題探究活動を通して地域のこどもたちが活躍する仕組みづくりや、こどもも大人も安心して意見を交換し合える取組、地域と学校を分けない多様な交り合いが起きる学校づくり等について、具体的な活動事例の紹介とともにその成果や課題を共有いただきました。

午後の5つの分科会では、全国の先進的な取組を共有し、課題やノウハウについて活発な意見交換が行われました。また、第5分科会では、市内小中学生23名と参加者が「楽しく安心して暮らせる私たちの町」をテーマに熟議を実施し、こどもたちが地域を誇りに思い、未来を創る力を育む取組の可能性を感じていただける機会となりました。学校と地域が互いにパートナーとしてこどもたちの成長を支えるコミュニティ・スクールの仕組みを更に活用し、魅力ある学校づくりを進めていく必要性を改めて確認したところです。

閉会行事では、次期開催地である京都市の稻田教育長へバトンをお渡しいたしました。京都市は、熟議する「理事会」と熟議を踏まえて活動する「企画推進委員会」を一体的に運用する「京都方式」のコミュニティ・スクールを確立され、20年以上にわたり実践を積み重ねていらっしゃいます。次回大会では、コミュニティ・スクールを中心とした持続可能な地域社会の構築に向けた方策を学び合う場となることを確信しております。



■左：稻田会長、右：仙台市 天野教育長

結びに、本大会の開催にあたり格別のご尽力を賜りました文部科学省の皆様、全国コミュニティ・スクール連絡協議会の皆様、並びにご後援いただいた各種団体の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加いただいた皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。



学びの輪、地域の和。未来へ繋ぐ
Community School

全国コミュニティ・スクール研究大会 in 仙台

多様なつながりの中で共に学び支えあう社会の実現に向かって ～自然災害からの復興・創生を通して考える コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性～

午前の部～開会行事／パネルディスカッション～

◎開会行事／ご支援いただいたご来賓の皆様を招いて

仙台大会が幕を開け、主催者を代表して 松本 洋平 文部科学大臣（代読 塩見 みづ枝 総合教育政策局長）のご挨拶、また開催地から 郡 和子 仙台市長（代読 藤本 章 副市長）の歓迎の言葉が披露されました。続いて来賓の皆様を代表し、伊藤 達也 衆議院議員からご挨拶をいただきました。

開会行事にご登壇いただいた来賓の皆様は次のとおりです。順不同にてご紹介いたします。

伊藤 達也 衆議院議員、藤本 章 仙台市副市長、美田 耕一郎 公益社団法人全国子ども会連合会 会長、赤池 誠章 前参議院議員、鈴木 寛 本協議会顧問、貝ノ瀬 滋 本協議会顧問

◎パネルディスカッション／実践者の知見から～復興・創生の歩みに重ねる協働の形

本研究大会テーマのもと、パネルディスカッション「復興の足跡から未来へ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性～」が開催されました。

自然災害からの復興や防災教育の実践を手がかりに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の可能性について、理解を深める場となりました。とりわけ、非常時に地域社会の力を發揮するためには、平時からの人と人との関係づくりが不可欠であるとの視点が共有され、学校を核とした地域づくりの重要性を改めて見つめ直す機会となりました。



■パネルディスカッションの様子

仙台市縄文の森広場 阿部 淳一所長からは、東日本大震災の経験を原点としたコミュニティ・スクールの立ち上げが報告されました。こどもと大人が対等に語り合う場「しゃべっ亭」を通じて、対話の積み重ねが、両者の距離を縮め、地域への信頼や子どもの自己肯定感を育み、日常の関わりが防災や地域づくりの基盤となっていることが示されました。



岐阜県飛騨市教育委員会 下出 尚弘教育長からは、災害時に孤立する恐れのある地域特性を踏まえた取組「防災マイプロジェクト」が紹介されました。子どもたちが地域の役割を担い、地域の活動に参画し、多様な人と関わる経験を重ねることで、地域の一員としての意識が育まれていること、また、行政職員が地域の一員として学校や地域活動に関わる体制が取組を下支えしていることが報告されました。

北海道安平町教育委員会 井内 聖教育長からは、災害時のみならず平時から機能する学校づくりの実践が報告されました。「学校の中に、まちをつくる」というコンセプトのもと、地域に開かれた学校空間が、学校と地域を隔てない多様な人々の交じり合いを生み出し、「子どもが世界と出会う場所」になり、学びと地域防災を両立する拠点となっていることが示されました。



ご登壇の皆様からの実践報告を通して、コミュニティ・スクールは、制度として整備するだけでなく、人と人との出会いや関係性を生み出し、子どもを地域の一員として育む「仕掛け」として機能させることで、多様なつながりの中で子どもも大人も共に学び合い、互いに支え合う地域づくりの力となることが確認されました。

研究大会のアーカイブ動画は
リンク先から視聴いただけます。
<https://youtu.be/TLpQ5q0nxY8>



午後の部～分科会～

◎分科会／どの会場も満員御礼！熱気あふれる分科会に

午後からは、5つの分科会が開かれ、各校からの実践発表と全国の参加者による熟議が行われました。大会テーマの下で、防災教育・地域防災をはじめ、キャリア教育、学校・地域の役割分担、学校・地域の問題解決、そしてこどもの視点と、多彩なテーマに基づく議論が展開されました。

いずれの分科会も活気に満ち、学校と地域の連携の可能性に気付き、深める場となりました。



分科会1 「防災教育・地域防災の視点」

仙台市立錦ヶ丘小・中学校コミュニティ・スクール「TOMONI トモスク」からは、子どもが主体となって地域へ防災を発信する取組が発表されました。総合的な学習を起点とした「こども防災会議 にしキッズ」では、子どもたちが地域課題を探究し、防災イベントを企画・発信しています。地域と学校が同じ方向を見つめ、子どもの成長と共に願いながら役割を分かち合う姿が示されました。

石巻市立青葉中学校からは、東日本大震災の教訓を生かした、学校運営協議会と地域防災組織の連携による実践が発表されました。「青中お助け隊」など、生徒が主体となって地域の方々と関わり、平時から顔の見える関係づくりが進められ、こうした取組を通して、学校と地域・学校運営協議会が地域防災をともに創り上げてきた姿が共有されました。

本分科会では、「学校と地域をつなげる防災教育のデザイン（学校運営協議会の活動を通して）」をテーマに熟議が行われ、地域と学校がどのように関わり合い、防災教育を通じて子どもの学びと地域の力を高めていくかについて意見が交わされました。

分科会2 「キャリア教育の視点」

仙台市立荒巻小学校学校運営協議会からは、総合的な学習の時間を活用し、子どもたちが地域学習に向き合う取組が発表されました。6年生が企画・運営する「あらまつり」では、学校運営協議会や地域住民との熟議を重ねながら地域課題への探究を深め、子どもたち自身が解決策を模索しています。地域の方々との関わりの中で主体性や社会性が育つ姿が示されました。

神奈川県立麻生支援学校からは、「児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」を軸とした取組が発表されました。学校運営協議会の部会で熟議を重ね、教職員・保護者・地域が共通理解を図ることで、学年や進路が変わっても支援が途切れない、地域全体で一人一人の育ちを支える「切れ目のない支援」体制が整えられています。

本分科会では、「地域の人々との関りを通じて、子どもたちが自分らしい生き方・働き方を考える力を育むには」をテーマに熟議が行われ、地域・学校・家庭がどのように連携し、子どもたちの将来を支えていくかについて意見が交わされました。

分科会3 「学校・地域の役割分担の視点」

南島原市立南有馬中学校からは、学校運営協議会と地域学校協働本部が熟議を重ねながら築き上げた「南有馬モデル」の実践が発表されました。「たくましい子ども」と「挨拶のできる子ども」の育成を目標に、「学校ができること」「地域ができること」「ともにできること」を丁寧に分類し、子どもを真ん中に置いて役割を分かち合い、人と人とのつながりの深い学校づくりが進められています。

仙台市立荒町小学校からは、学校教育目標を学校運営協議会の委員と共有し、学校と地域の強みを活かした役割分担の実践が発表されました。年度当初のカリキュラムデザイン研修会では、生活科や総合的な学習の内容を学校と地域が共に構想し、また「仙台荒町子まもりプロジェクト」では、商店街や児童館、企業など約50団体が連携し、日常的な「ながら見守り」による支援体制が整えられています。

本分科会では、「学校と地域が目標を共有するためには、どのようにするべきか」をテーマに熟議が行われ、子どもたちのために、学校と地域が互いの強みをどう生かし合うかについて意見が交わされました。

分科会4「学校・地域の問題解決の視点」

山形市教育委員会からは、市全体でコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進する体制づくりの実践が発表されました。学校運営協議会での充実した熟議を重ねる中で、地域主体の活動が生まれ、学校と地域が課題を共有しながらともに解決を図る仕組みが形成られてきたことが示されました。

岩手県立西和賀高等学校からは、人口減少という地域課題に向き合い、「高校魅力化」を軸に学校と地域が協働する取組が発表されました。リンドウの花摘みボランティアや地域探究活動などを通じて、生徒の学びと地域の担い手づくりを同時に実現する実践が示され、高校が核となり持続可能な地域づくりを支える拠点となっている姿が示されました。

本分科会では、「学校とともにある地域とは？」をテーマに熟議が行われ、地域と学校が課題や目標をどのように分かち合い、ともに解決を目指していくのかについて意見が交わされました。

分科会5「子どもの視点」

仙台市立原町小学校からは、校木である「柿の木」に象徴される地域との深いつながりを基盤に、学校運営協議会や商店街、地域団体と連携した学びを進めていることが発表されました。6年生の総合的な学習の時間「原町盛り上げ隊」では、子どもたちが商店街の商品開発や安全マップづくりを通して町の課題解決のために自分たちができることを計画・実践し、地域の大人との熟議を行ってきました。

本分科会では、市内小中学生と参加者が「楽しく安心して暮らせる私たちの町」をテーマに熟議が行われ、公園や居場所づくり、交通安全や防災など、多様な視点で意見が交わされました。特に子どもが熟議に参加した本分科会においては、子どもの気付きや願いが大人の視点や経験と結びつき、地域の未来と共に考える世代を超えた提案につながり、コミュニティ・スクールの意義を改めて確認する場になりました。

文部科学省委託事業 「教育長による教育長のためのコミュニティ・スクール相談窓口」

当会では、コミュニティ・スクール未導入自治体や今後導入を進めていく自治体、導入済みでも課題を感じている自治体を対象に、相談事業を実施しております。

【本年度実施期間】令和8年3月31日まで（相談受付は令和8年2月27日まで）
※締め切りを2月20日→2月27日まで延長しております。



- ◎コミュニティ・スクール100%導入済の自治体も、お申込み可能です。
- ◎相談を希望される自治体や、近隣自治体からコミュニティ・スクールに関するご相談を受ける自治体の教育長様は、ぜひ活用をご検討ください！

コミュニティ・スクールの導入に課題を感じている皆様、コミュニティ・スクールを導入したものの、質の向上に課題を感じている皆様、教育長同士で相談してみませんか。コミュニティ・スクールに深い知見を有する教育長が現地に伺います。（オンラインも可）ご不安やニーズを個別詳細にとらえ、実情に応じた助言ができるため、質を伴った導入・推進にお役立ていただけます。

詳しくはこちら
のQRをご覗く
ださい！



実施後アンケートでは「今後の参考になった」との回答を100%いただいております！

全国コミュニティ・スクール連絡協議会

会員募集中！



★お知らせ★

本協議会では、会員自治体におけるコミュニティ・スクールに関する研修会やイベントなどの情報を募集し、発信することを通して、更なる普及と質的向上に貢献したいと思います。

会員の皆様からの情報提供をお待ちしております！

全国コミュニティ・スクール連絡協議会

事務局 京都市教育委員会 生涯学習部学校地域協働推進担当

〒604-8064 京都府京都市中京区富小路通六角下る骨屋之町 549 (元・生祥小学校内)
ホームページ <http://www.japan-cs.org/>